

祝 開通

2019.3.21

平和大橋歩道橋

1952



平和大橋の欄干の復元などにあたっては、公益財団法人イサム・ノグチ日本財団の御協力を頂きながら進めてまいりました。

●平和大橋

完成:昭和27年(1952年)3月
橋長:85.55m
幅員:16.1m
上部工:4径間単純鋼鈹桁橋
下部工:橋台2基+橋脚3基

●平和大橋歩道橋

完成:平成31年(2019年)3月
橋長:86m
幅員:5.7m
上部工:2径間連続合成鈹桁橋
下部工:橋台2基+橋脚1基

2019



広島市

道路交通局道路計画課
中区建設部地域整備課

平和大橋歩道橋

目的

平和大橋歩道橋は、平和記念公園を訪れる多くの人の安全で快適な歩行者・自転車の通行空間を確保するため、平和大橋の上流側に新設したものです。また、平和大橋の北側の既設歩道を廃止し、その一部を車道に転換することで、自動車走行空間の改善も図られます。

平和大橋の欄干

平和大橋の欄干は、西側の西平和大橋とともにアメリカの著名な彫刻家イサム・ノグチ氏がデザインした、現存する唯一の土木構造物です。丹下健三氏の推薦により、当時の浜井広島市長がイサム・ノグチ氏にデザインを依頼しました。

デザインの由来として、イサム・ノグチ氏は、「設計の際、私は、建設の理念、すなわち新たに自己の生活を建設する者の特に再建広島理念を伝えるものとするべきと考えている。

従って、私は、建設を意味する名前をその橋につけたいと思います。」と述べ『つくる』と命名されました。

なお、西側の西平和大橋の欄干は、離別の理念をもって『ゆく』と命名されています。



▲ 建設当時の神事の様子

[中国新聞社提供]

デザインコンセプト

- ① 広島平和記念都市建設法の理念である「恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴」としての平和記念都市にふさわしい歩道橋とする。
- ② イサム・ノグチ氏がデザインした平和大橋の欄干と調和した歩道橋とする。
- ③ 川面や河岸緑地から見える全体の姿が美しい歩道橋とする。
- ④ 原爆ドーム及び平和大橋の欄干の眺望をできるだけ妨げない歩道橋とする。
- ⑤ 平和記念公園や周辺の河岸緑地、元安川との調和に配慮した歩道橋とする。
- ⑥ 歩行者と自転車利用者が安心して快適に通行できるように、平和大通りの連続性に配慮した歩道橋とする。

歩道橋の欄干

イサム・ノグチ氏がデザインした平和大橋の欄干を引き立てるよう透明な強化ガラスを採用しています。また、照明灯は設置せず、支柱にLED照明を内蔵することにより、全体としてシンプルなデザインにしています。



舗装

平和大橋欄干のデザインを損なわないようグレー系を中心に設定するとともに、平和大通りの歩行空間との連続性に配慮し、歩行者空間はグリーン系の平板ブロックを採用しています。

自転車空間は、走行性を考慮し、グレー系のアスファルト舗装を採用しています。



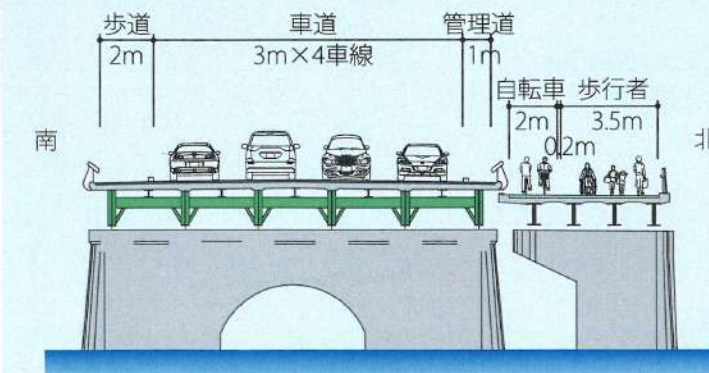
ライン照明

イサム・ノグチ氏がデザインした欄干を浮き立たせるよう床面にライン照明を設置しています。



道路

歩道橋の設置に伴い、北側の既設歩道(2メートル)を廃止することで車道の4車線化が可能となり、車両の走行性の向上が図られます。



欄干デザインの復元

1952年(昭和27年)に建設された当時の姿は、コンクリートの打ちっ放しの姿でした。このため、歩道橋の新設にあわせ、欄干を建設当時の姿に近いものに復元しています。



2015年(平成27年)撮影



平和大橋の説明板

広島北ロータリークラブより、創立50周年を記念して広島市に寄贈されました。

